

地域連携サポートプラン課題研究会

■ 開催概要

- 「地域連携サポートプラン」は、地方公共団体の地域公共交通に関する取組みをこれまで以上に積極的に推進していくため、近畿運輸局と選定自治体とで協定を結び、地域公共交通に関する課題の整理・解決を支援しつつ、近畿運輸局から提案書を交付し、地域公共交通網形成計画の策定・推進等につなげることを目指すもの
- その一環として、地域連携サポートプラン課題研究会を開催。対象自治体が地域公共交通に関する現状・課題を、各運輸支局がそれに対する提案の素案をそれぞれ発表し、他の対象自治体や府県、学識経験者との意見交換を実施

■ 日時・場所

日時: 平成29年2月17日(金) 10時00分～17時30分
 場所: 大阪合同庁舎4号館 4階講堂

■ 参加者数

44名
 (市12名、県7名、国20名、その他5名)

■ 開催結果

【開会挨拶】

国土交通省近畿運輸局交通政策部 計画調整官 川合 宏和



【講義】

少子高齢化にかかる地域公共交通の政策について
 大阪大学COデザイン・センター 特任教授 土井 勉氏

- 地域公共交通は多様な価値を生み出し(クロスセクター効果)、その赤字は地域を支える費用と理解すべきこと、総交通量減少の時代にこそ地域の合意や協働による工夫が不可欠であること等について講演



【課題研究 大東市】

東部地域における新たなサービス導入について

- エリア運行の検討、運行に際しては地域住民が主体となって考えることが適切であること、フルデマンドとした場合の問題等の意見・アドバイスが出された



【課題研究 宇陀市】

スクールバスの有効活用の検討、路線バスの効率化の検討について

- 保護者の理解を得るために利用者を登録制とすること、交通事業者との調整を進めるために運輸局が調整役となること等の意見・アドバイスが出された



【課題研究 河内長野市】

コミュニティバスの利用促進、公共交通不便地域の解消について

- 事業者が営業努力しやすいように事業者と行政が協定を結ぶことの有用性、公共交通サービスが整備されると地域住民の外出量が増えること等の意見・アドバイスが出された



【課題研究 福知山市】

地域公共交通ネットワークの再編と公共交通空白地域等における新たなサービスの導入について

- 低利用路線の維持にこだわらず意欲的な地域に資源を再配分することも検討すべきであること、交通利便性が高まれば高齢者の免許返納は進むこと等の意見・アドバイスが出された



【課題研究 淡路市】

路線バスの減便・撤退について

- 路線バス再編の前提として、島内交通のハブ&スポーク機能を整理することが重要であること等について意見・アドバイスが出された



【課題研究 橋本市】

地域住民の地域公共交通に対する意識改革について

- コミュニティバスを運行にあたっては需要の把握が重要であること、地域住民が公共交通に参画する仕組みを構築すべきであること等の意見・アドバイスが出された



【課題研究 東近江市】

乗合タクシーの見直しについて

- 運行形態の見直しに関する意見収集の際には実際に公共交通を利用している者の意見を聞くこと、バス停の位置等運行の詳細については自治会の主体的な考えに任せることが重要であること等の意見・アドバイスが出された



【振り返り】

【閉会挨拶】

国土交通省近畿運輸局交通政策部長 金指 和彦



○行政全体の支出を把握しよう

-クロスセクター効果を算出してはどうか。

(参考)「社会全体の支出抑制効果から見る公共交通が生み出す価値-クロスセクターベネフィットの視点から-」(西村和記、土井勉、喜多秀行2014)

クロスセクターベネフィットとは、公共交通を確保・維持することの効果・価値を交通分野だけでなく関係する他部門も含めて検討すると、公共交通に対する支出が医療費や社会保障費用の削減などにつながり、社会全体の費用を削減している可能性があるということ把握するという考え方。

モデル都市(人口5万人、高齢化率28%)における試算として、公共交通に対する支出5,000万円に対し、医療、福祉、教育等の支出抑制効果は3億9,100万円と推計。

○需要はどこに

- タクシー、路線バスとの競合避けよ。
- 地域で考える。
- 現場を見に行くべき。
- 民生委員に聞いてはどうか。

○デマンドは切り札にあらず

- フルデマンドはコスト増。タクシーと何が違うのか。
- 導入するとしてもハブ&スポークが適切か。
- 利用が増えたら定時定路線運行への転換も視野に。

○地域住民の参画を

- 行政は「場」をつくる。
- どのくらい経費がかかるかを地域で共有する。

○目標設定を連携の接着剤に

- 収支の目安(見直し基準)を地域住民と考える。
- 行政内部部局間で話をする。

○既存事業者は仲間

- 需要の掘り起しを一緒に考える。